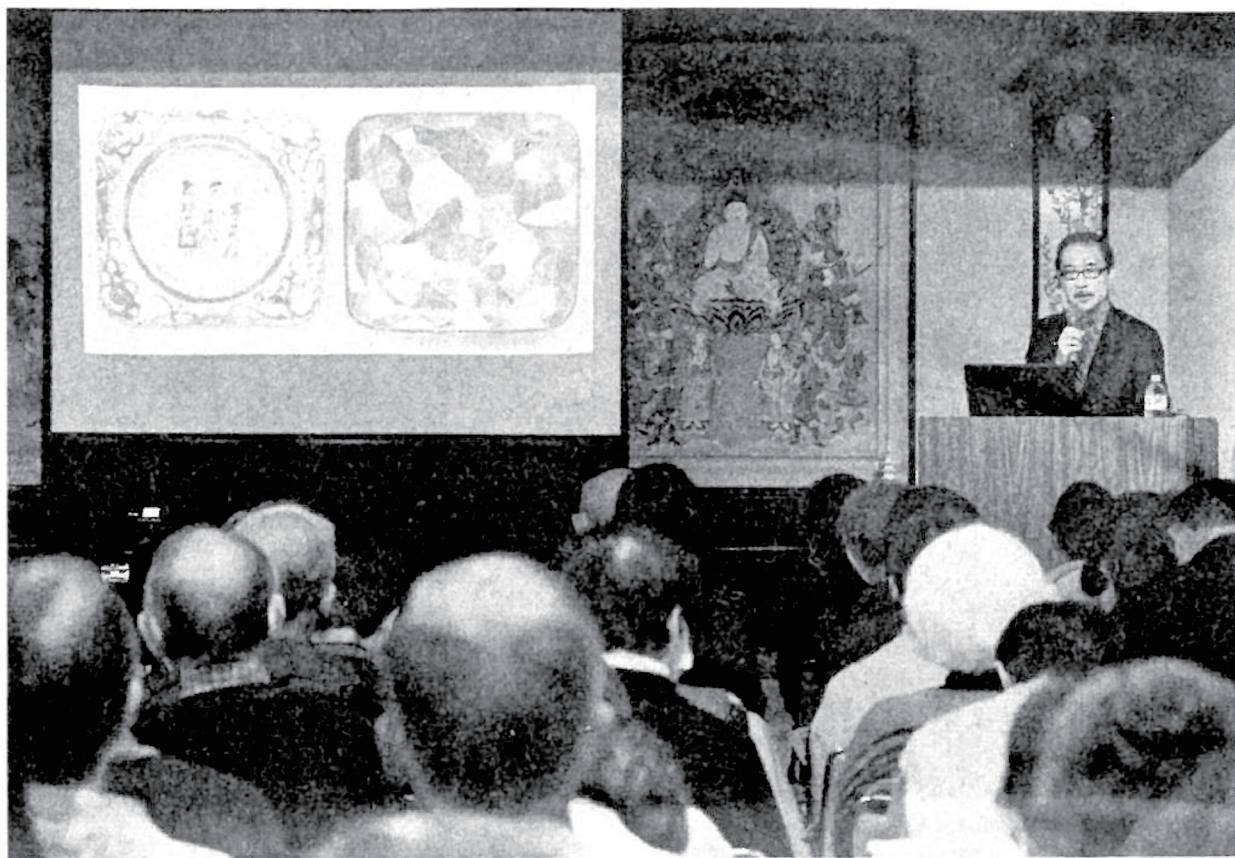


京博館長選ぶ「ベスト10」

雪舟「天橋立図」など解説

京都国立博物館の所蔵品や寄託品の
魅力を説く松本館長（奈良市で）



薬師寺月例

まほろば塾

日本人の美しい心や豊かな文化を伝える「月例奈良まほろば塾」（読売新聞社

後援）が21日、奈良市の薬師寺で開かれた。美をテーマにした「シリーズ美」の最終回で、京都国立博物館の松本伸之館長の講演に約170人が聴き入った。

松本館長は、同館の計約1万6000件に上る所蔵品と寄託品の中から「ベスト10」を選んで紹介。天橋立周辺を克明に描いた雪舟の代表作の一つ「天橋立図」について、現実に見ることができない鳥瞰的視点であることを指摘し、「現地でスケッチして頭の中で構図を空想したと推測されるが、謎が多い作品だ」と説明した。

そのほか、京都ゆかりの尾形光琳による「竹虎図」、

京焼を発展させた弟・乾山による「色絵氷裂文角皿」などを採り上げた。

塾長の大谷徹瑛・同寺副住職との対談では、美術品を鑑賞する際、自主的に気付きを得ようと心がけて「一歩踏み込む」見方をする大切さを強調した。

次回の月例塾は来年1月18日、篠笛奏者で作曲家の佐藤和哉さんが登壇する。